

令和3年12月9日

リニューアブル・ジャパン株式会社
代表取締役 眞邊 勝二 様

日本野鳥の会石川
代表 中村正男
〒929-1125 石川県かほく市宇野気 1-71

公益財団法人日本野鳥の会
理事長 遠藤 孝一
〒141-0031 東京都品川区西五反田 3-9-23 丸和ビル

(仮称)門前穴水風力発電事業に係る計画段階環境配慮書に対する意見書

貴社が作成された(仮称)門前穴水風力発電事業に係る計画段階環境配慮書(以下、配慮書という)における事業実施想定区域(以下、計画地という)には、地域の生態系ピラミッドの頂点に立つ希少な猛禽類が多く生息しており、また、多くの小鳥類の渡りルートとなっている地域です。そのため風力発電施設(以下、風車という)の稼働後には、バードストライクや障壁影響を含む生息地放棄等が発生することが大きく危惧されます。また、既設並びにすでに計画が進められている他の風力発電事業も多数存在するため、下記の配慮と対応を求めます。

記

1. 能登半島には既設および現在計画中の風車が多数存在しており、これらの計画が鳥類や自然環境に及ぼす累積的影響を評価しなければなりません。特に、配慮書に記載された事業実施想定区域周辺における他事業とは、これらの計画が鳥類や自然環境に及ぼす累積的影響を評価すべきです。(仮称)能登里山風力発電事業の計画地は本事業の計画地と重複が生じないように計画地を縮小することですが、隣接する計画地であり特に累積的影響を評価すべきです。
2. 計画地にはミサゴ、ハチクマ、ツミ、オオタカ、サシバ、ノスリ、ハヤブサ等の希少猛禽類が多数生息しています。また、それらの種の採餌場所にもなっています。さらに、クマタカは能登地方での生息範囲を徐々に広げていることが確認されており(少なくとも輪島市までは確認されている)、計画地にクマタカが生息している(あるいは今後生息する)可能性があります。さらに、ミゾゴイが繁殖している可能性もあります。このような地域では希少な鳥類の生息地放棄、繁殖阻害、バードストライクが生じることを念頭においた詳細な調査が必要です。
3. かつて能登全域は、シベリア方面から渡ってくるツグミ類を主な対象としたカスミ網猟が行われていた地域であり、現在も多くの小鳥類の渡りのルートになっていることが分かっています。小鳥類の多くは夜間に渡るため、夜間におけるバードストライクの発生を念頭においた詳細な調査が必要です。
4. カモ類は日本海を直接横断して大陸へ渡ることが確認されており(文献 1, 2)、七尾湾等に多数生息するカモ類が計画地を通過する可能性があります。そのため、カモ類の夜間のバードストライク発生を念頭においた調査が必要です。
5. 風車建設後は事後調査を実施し、バードストライクの有無や生息する鳥類、特に猛禽類のペアの分布や飛翔パターン、生息状況等が風車建設後にどのように変化するかを確認し、風車の運転による影

響を検証すべきです。なお、風車の運転開始直後にはすぐに影響が表面化しない可能性があること、長期間の蓄積により影響が拡大する可能性があること、そのほか希少猛禽類のペアの交代による変化なども考慮すると、事後調査は運転開始直後から1年間などだけではなく、「5年後、10年後」など長期に渡る確認が必要であり、そのことを念頭に置いた計画の立案が肝要と考えます。また、バードストライクの有無を監視する仕組みを構築する必要があり、第三者を入れた検討体制を作り、バードストライクが多発した場合は、事業者のみでなく第三者となる有識者も入れて検討する機会を設け、対象となる風車の稼働停止、さらに定常的に発生する場合には、風車の撤去を影響の軽減策に盛り込むべきです。なお、事後調査結果、バードストライクの発生事実、その対策検討結果等は公表されるべきです。

6. 環境アセスメント制度における配慮書、方法書、準備書等の貴社が作成したアセス図書に閲覧期限が設定されることは、著作権者である貴社の意向によるものです。しかし、それでは貴重な情報が失われることになり、環境影響評価法に規定される縦覧・公開期間が終了した後も、環境省のウェブサイトおよびアセス図書の国立国会図書館支部・環境省図書館での公開さらには、石川県立図書館での公開も検討したいと考えます。

以上

引用文献

- 文献1 : Tajiri H, Sakurai Y, Tagome K, Nakano Y, Yamamoto Y, Ikeda T, Yamamura Y, Ohkawara K. 2015. Satellite telemetry of the annual migration of Baikal Teal *Anas formosa* wintering at Katano-kamoike, Ishikawa, Japan. *Ornithological Science* 14: 69-77.
- 文献2 : Yamaguchi N, Hiraoka E, Fujita M, Hijikata N, Ueta M, Takagi K, Konno S, Okuyama M, Watanabe Y, Osa Y, Morishita E, Tokita K, Umada K, Fujita G, Higuchi H. 2008. Spring Migration Routes of Mallards (*Anas platyrhynchos*) that Winter in Japan, Determined from Satellite Telemetry. *Zoological Science* 25: 875-881.